



# 大宮小だより

R3年6月2日 No.4

発行 阪井宏行

～自ら学び、心豊かで、しなやかに生きる子どもの育成～

## 2,3年生が花植え体験 ～地域みなさんと体験学習～

5月7日(金)、地域学習の一環として、2,3年生が滝原のビオトープで花植え体験学習を行いました。4,5年生の田植えと同じく、指導にあたっていただいたのは『人とホタルの元気な里地づくりプロジェクト』の皆さんです。マルチ貼り、穴あけを体験した後、サルビアや百日草の苗を穴に植えていきました。花植えが終わった後は、ビオトープで生き物探しです。オタマジャクシやドジョウなど様々な水生生物を見つけることができました。

6月といえばホタルの季節ですが、ビオトープの隣には中田河内川という大内山川に流れ込む小川があり、ホタルの生息地としても良く知られています。『人とホタルの元気な里地づくりプロジェクト』の皆さんがホタルの保護育成に関わっておられます。



ゲンジボタルの成虫の生命はおよそ2週間。産卵を終えるとオスもメスも死んでしまいます。コケに産みつけられた卵から約1か月後に幼虫がふ化します。夏に卵から出た幼虫はすぐに水面に落ちて水中生活が始まります。その時の体長は1.5mm。幼虫の食べ物は「カワニナ」という貝の仲間です。えさになるカワニナをどう育てるかがプロジェクトの皆さんの仕事でもあります。幼虫は脱皮を繰り返し、次の年の5月頃には3cmほどの大きさに成長します。雨の日、幼虫は光を出しながら陸に上がります。その後、土の中にもぐり1ヵ月半じっと休みます。そのうち背中が割れて白いさなぎになって出てきます。2～3週目の夜、さなぎの背中が割れて成虫のホタルが現れます。その繰り返しがホタルの一生になります。

## 引渡し訓練を行いました。 ～ご協力ありがとうございました～

5月28日(金)、当日は梅雨の晴れ間に恵まれ、スムーズに訓練を行うことができました。訓練の大まかな内容は次のようです。

①担任が教室で【引渡しカード】を配ります。→②児童はカードを持って虹の広場に通学団別に待機します。→③14:25,保護者宛に引取り依頼のメールを発信。→④保護者はメールを受けて来校、車はドライブスルー方式で一方通行で校内に入ります。→⑤保護者は児童玄関前で車に乗ったまま受付をします。→⑥受付では引取り者の本人確認と帰宅場所の聴き取りを行います。→⑦確認が取れたら、児童を引渡し帰宅してもらいます。

14:25にメールを発信して、最後の引渡しが15:05くらいでした。途中、サッカーゴール前で、少し待ち時間が発生しましたがスムーズに引き渡しが行えたと思います。ご協力ありがとうございました。



## 嬉しい出来事です！ ～5月半ばにこんなことが・・・～

ある日の夕方、調理員の西村さんに声をかけられました。「校長先生、ちょっと報告です。」……「今日、給食の後、2階の給食ワゴンの回収に階段を上がって行くと、体操服を着た男の子が、『いつもありがとうございます！』と声をかけてくれたんです。近くにいた用務員の北川さんにも同じように『いつもありがとうございます！』と声をかけていました。とても嬉しかったので校長先生に報告しなければと思っての報告です。」……早速次の日の朝の打合せで先生方に伝えました。……自然にこんな言葉をかけることができるなんてすごいですね。嬉しさもありますが、驚きでもありました。

これまで何校かで給食をいただけてきましたが、大宮小の給食はとても美味しいです。毎日気持ちを込めて丁寧に給食を作ってくれている調理員さんたちのおかげです。去年の4月、僕の給食の量は少なめでお願いしますと頼んだことを後悔しています。雨上がりの朝、子どもたちのお尻が濡れないようにブランコの板をぞうきんでふいてくれている北川さんを見かけました。誰も気が付かないことをしてくれています。学級園のサルよけ防護柵を作ってくれたのは運転手の平田さんと米倉さんなんです。知ってましたか？あのあみがなかった頃は全部サルに食い荒らされていたんです。調理員さんも用務員さんも運転手さんも、いつも細かいところで仕事してくれています。あらためて感謝したいです。